

平成27年度秋季全国鶏病技術研修会(2015,10,16)

(鶏病研究会50周年記念)

鶏病研究会50年のあゆみ

1. 鶏病研究会創立の経緯
2. 会員・組織・運営
3. 活動の概況(事業)
 - 専門委員会
 - 編集委員会
 - 鶏病技術研修会
 - (全国, 地区, 支部)

顧問 佐藤静夫

鶏病研究会



1. 鶏病研究会設立の経緯

背景: 養鶏産業の発展と鶏病の蔓延

鶏病研究会設立構想: 農林省高村衛生課長

設立準備: 養鶏産業関係者との打ち合わせ,
県段階での検討

発起人会の設立: 産官学関係者

設立総会:

鶏病発生
の推移

IB, MG, IC
口口,

ND, MD, AE, IBD

EDS, CAV

SE

HPAI

採卵養鶏の推移 衰退期 回復期 発展期 成熟期

鶏病研究会設立

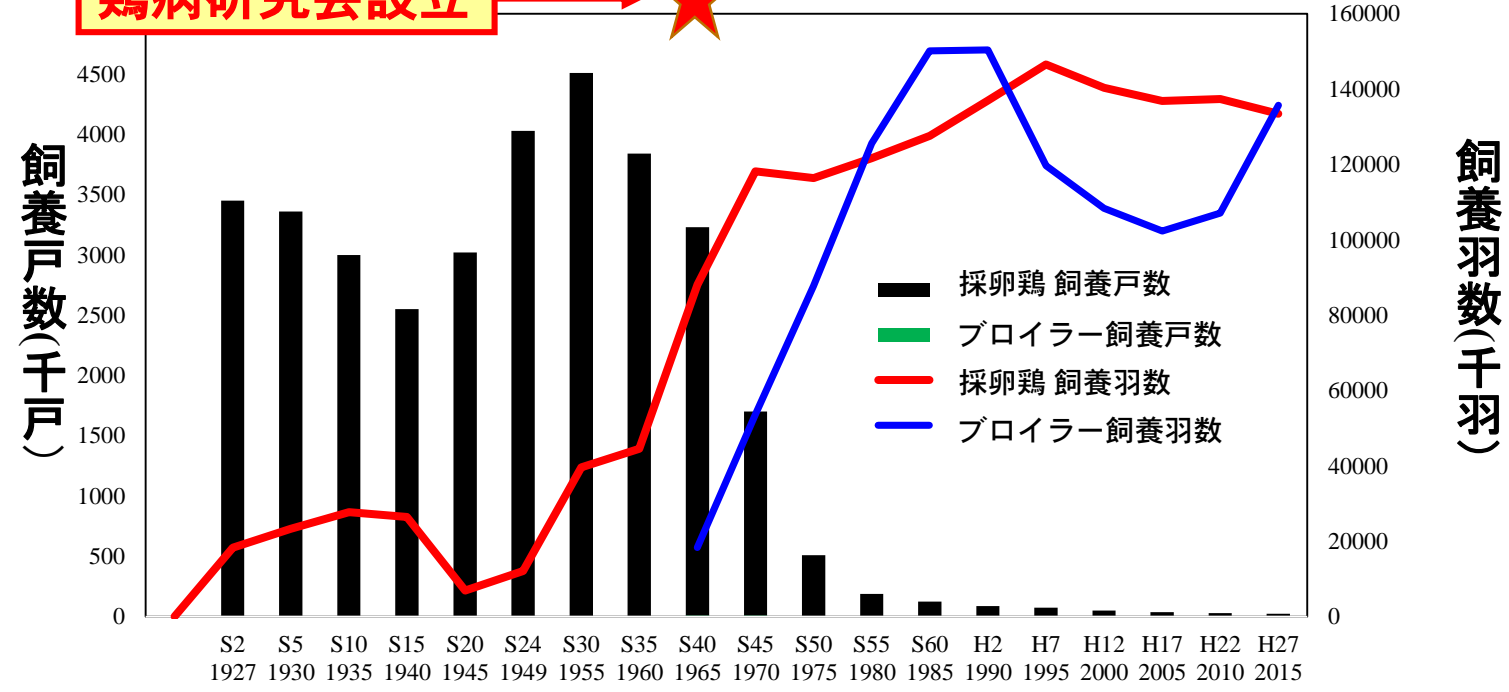


図1. 日本における鶏の飼育羽数と戸数の推移(文献による)

わが国の養鶏産業の発展と鶏病の蔓延

(記念誌 p272-274)

鶏病研究会設立構想(資料2-3;p117)



農林省畜産局衛生課
(故)高村 禮課長

—

- NDを始めとする鶏病の診断や防疫に関して学会的な立場にとどまらず、養鶏現場における鶏病問題の具体的な解決方法の検討を目的とした産官学の協力体制による組織(鶏病研究会)の設立

設立準備(鶏の衛生関係機関打合会)

- 日時:S40(1965)年4月17日10時～
- 場所:全販連(6号会議室)
- 出席者:
 - 農水省衛生課; 高村課長、佐藤卯朔, 佐々木敏夫
 - 農林省動物医薬品検査所: 蒲地五四郎所長, 信藤謙蔵
部長, 西村 豊, 田中稔治
 - 農林省家畜衛生試験場: 椿原彦吉
 - 日本養鶏協会: 今村文雄
 - 中央畜産会: 木村唯一
 - 全購連飼料部技術普及室: 朝野恭三, 平井次郎
 - 全販連園畜調査室: 伊藤俊一郎参与
 - 全販連養鶏部: 岩下豊水部長, 富田四郎部長

鶏病研究会設立に関する県段階の検討

◆ 第1回検討会：

- ・ 日時：S40(1965)年5月14日
- ・ 場所：農林省家畜衛生試験場（鶏病実態調査打合会）
- ・ 出席者所属県：宮城，埼玉，静岡，岐阜，奈良，島根，愛媛，熊本(計8県)
- ・ 検討結果：全国的な鶏病に関する研究会組織の必要性を認めるが、その可否は**各県において検討**するとされた。

◆ 第2回検討会

- ・ 日時：S40(1965)年9月17日
- ・ 場所、出席者：同上
- ・ 検討結果：参加全8県が**鶏病研究会の組織化に賛成**

鶏病研究会の設立準備・設立総会

- ◆関係機関での検討：農林省家畜衛生試験場，衛生課，民間研究所，大学関係者の合意と発起人受諾
- 発起人：**奈良県畜産課石川俊夫他26名**（資料1-1;p103）
- 趣意書：（資料1-2;p103），会則（資料1-3;p103）「本会は**鶏病技術に関する知識の向上と，その応用・普及によって養鶏産業の振興に寄与する**」，会の運営要領（資料1-4;p105）
- ◆設立総会
- 日時：S40年9月23日
- 場所：農林省（臨時防疫対策打合会に継続）
- 役員選出：**理事長 高松泰人理事（日生研）**
- （資料1-5a;p106）

設立当時の役員名簿(任期:S40,9-42,3)(資料1-5a;p106)

[役員] 氏名 所属・役職

[理事長] (民間研究所)

高松 泰人 日本生物科学研究所部

[副理事長] (農林省:)

椿原 彦吉 家衛試ウイルス製剤研究室長

[理事:18名]

(農林省:6名)

高村 禮 畜産局衛生課長

蒲池五四郎 動物医薬品検査所長

信藤 謙三 動物医薬品検査所部長

渡辺 守松 家衛試第二研究部長

唐沢 進 動物検疫所長

関寺 章八 大宮種畜牧場長

(大学:5名)

三浦 四朗 北海道大学獣医学部教授

鳥羽 秋彦 東北大学農学部教授

堀 慧 岡山大学農学部教授

[役員] 氏名 所属・役職

尾形 学 東大農学部獣医学科教授

五島 治郎 名古屋大学農学部教授

(民間研究所, 団体:3名)

市原 鶴雄 化学血清療法研究所部長

佐々木文存 京都微生物化学研究所部長

松下 惟浄 中央畜産会コンサルタント指導職

(県種鶏場・畜産課:4名)

杉浦金治郎 徳島養鶏試験場長

阿部 終吉 福岡県種鶏場長

麻生 三郎 愛知県畜産課長

三鍋 敏郎 宮城県畜産課長

[監事:2名]

加野 正 埼玉県畜産課長

添川 正夫 北里研究所家衛研所長

2. 会員・運営

1) 会員：正会員, 支部設立, 賛助会員

2) 運営：諸会議

鶏病支場と鶏病研究会：

20, 30, 40周年記念式典

鶏病研究会創設
(1965' 9, 23)

食鳥検査制度施行
(1992' 4, 1)

鶏病研究会会則改正(第3条:「家き
んおよびその生産物の衛生」に改訂
(1994,4,20)

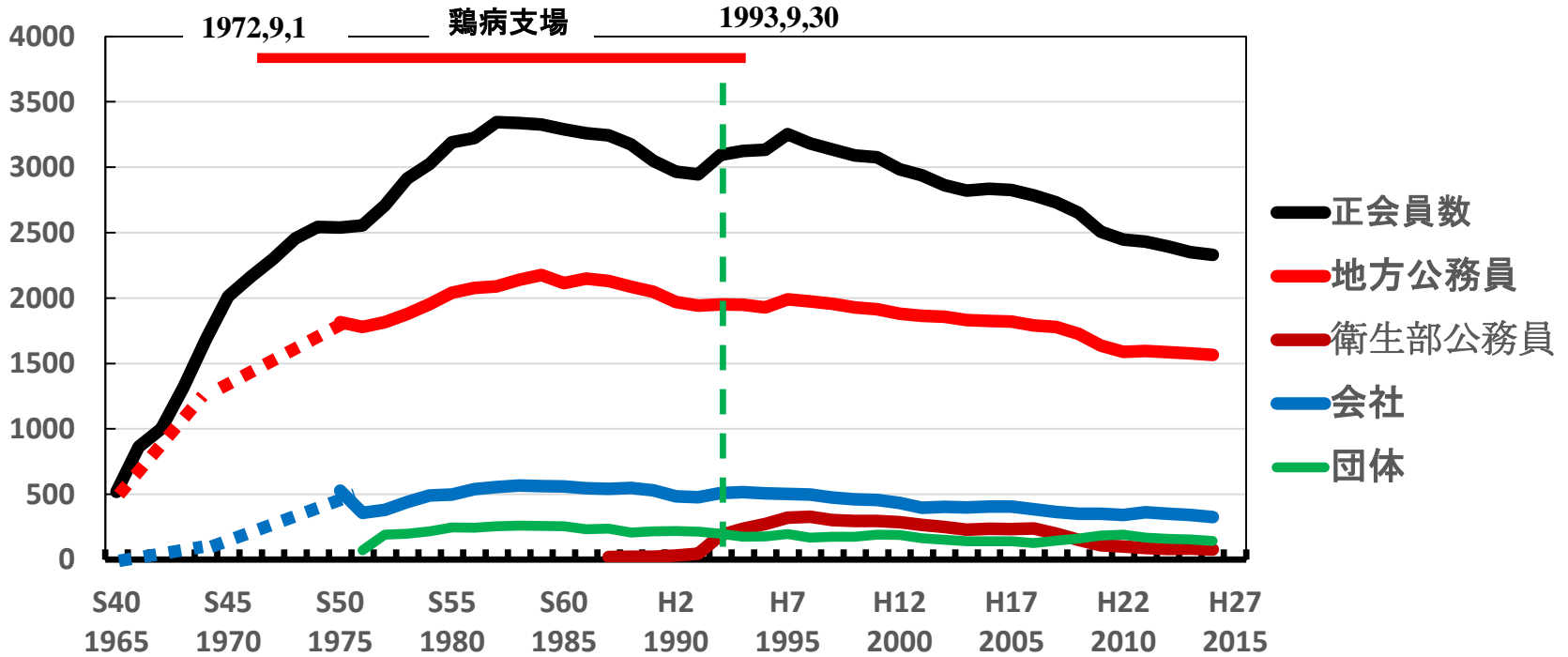
10周年(75'12)

20周年(85'10)

30周年(95' 9)

40周年(05' 10)

50周年(15' 10)



会費改訂 A B C D E F G H I
(X100円) 3 5 10 15 20 25 35 45 55
入会金 a b c (1,000円)
(廃止)

入会者総数: 11,557名

鶏病研究会会員数の推移と関連事項 (頁科7,8;p135-136)

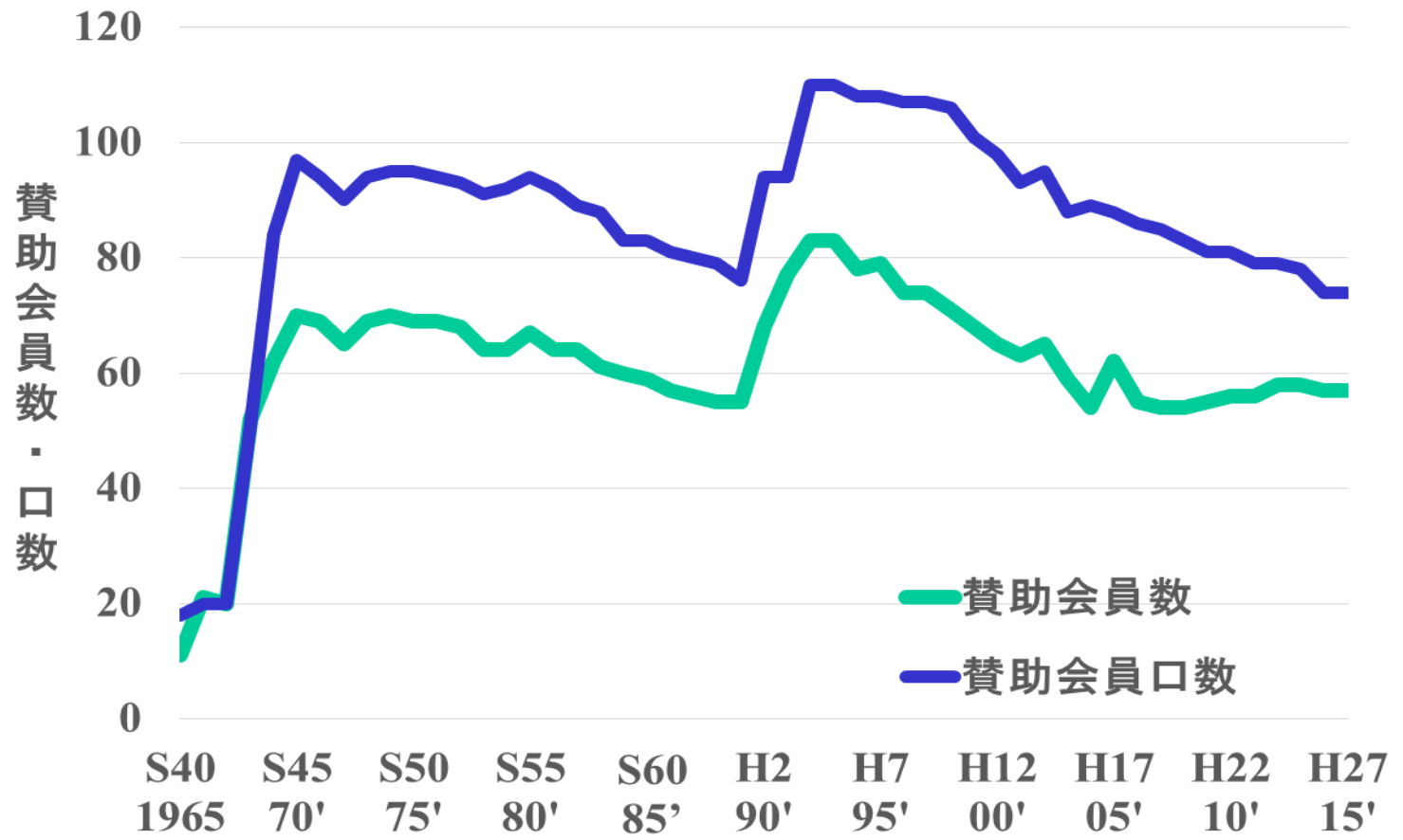
		西暦	65'	66'	67'	68'	69'	70'	71'	72'	73'	74'	75'	76'	77'	78'	79'	80'	81'	82'	83'	84'
地区	支部名	S40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	
北海道・東北地区	北海道											9										
	青森県						7															
	岩手県																			10		
	宮城県																			11		
	秋田県																			9		
	山形県																	10				
	福島県					4																
	支部数					1	2					3						4		7		
関東・甲信越地区	茨城県															7						
	栃木県									6												
	群馬県								4													
	埼玉県*						6															
	千葉県									3												
	神奈川県*					12																
	新潟県							3														
	長野県*						7															
山梨県*						6																
	支部数					4		6		8						9						
東海・北陸地区	富山県							7														
	石川県						9															
	福井県						5															
	岐阜県	8																				
	静岡県		7																			
	愛知県	12																				
	三重県					6																
	支部数	2	3		4	6	7															

*支部解散：埼玉県(2014,3,31)、神奈川県(2009,3,31)、長野県(2013,2,28)、山梨県(2013,3,31)

鶏病研究会支部の設立推移-1 (資料13;p146-151)

		西暦	65'	66'	67'	68'	69'	70'	71'	72'	73'	74'	75'	76'	77'	78'	79'	80'	81'	82'	83'	84'
地区	支部名	S40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	
近畿地区	滋賀県									10												
	京都府		2																			
	大阪府		2																			
	兵庫県		8																			
	奈良県		12																			
	和歌山県					5																
	支部数	1	4		5					6												
中国・四国地区	鳥取県																			3		
	島根県									1												
	岡山県		7																			
	広島県				9																	
	山口県						7															
	徳島県																				5	
	香川県						4															
	愛媛県										1											
	高知県						7															
	支部数		1		2	5				6	7						8				9	
九州地区	福岡県			12																		
	佐賀県			4																		
	長崎県			5																		
	熊本県							6														
	大分県		2																			
	宮崎県					5																
	鹿児島県																5					
	沖縄県												6									
	支部数		1	4		5	6					7				8						

鶏病研究会支部の設立推移-2



会費改訂：	A	B	C	D	E	F
(x 1,000円)	10	15	18	25	30	40

資料7; p135
 (資料14-1,-2; p152-154)

贊助会員数・口数の推移

鶏病研究会の運営(記念誌p93-96)

◇通常総会：年1回(衛生主任者会議開催時)

- 議事：会則改訂, 事業, 予算・決算, 理事・監事任命等

◇理事会(理事：官公庁, 地区, 団体各6名, 学識経験者15名, 計32名, 監事2名)：年1-3回 (就任者総数：理事 382名, 監事 21名)








- 総会提案議題決定, 専門委員会課題審議・承認
- 「あり方委員会」(1984)堀内委員長ほか9名(資料1-6;p108-112)

答申(11.30):**鶏病支場を本会運営の中心的存在として期待したい。**

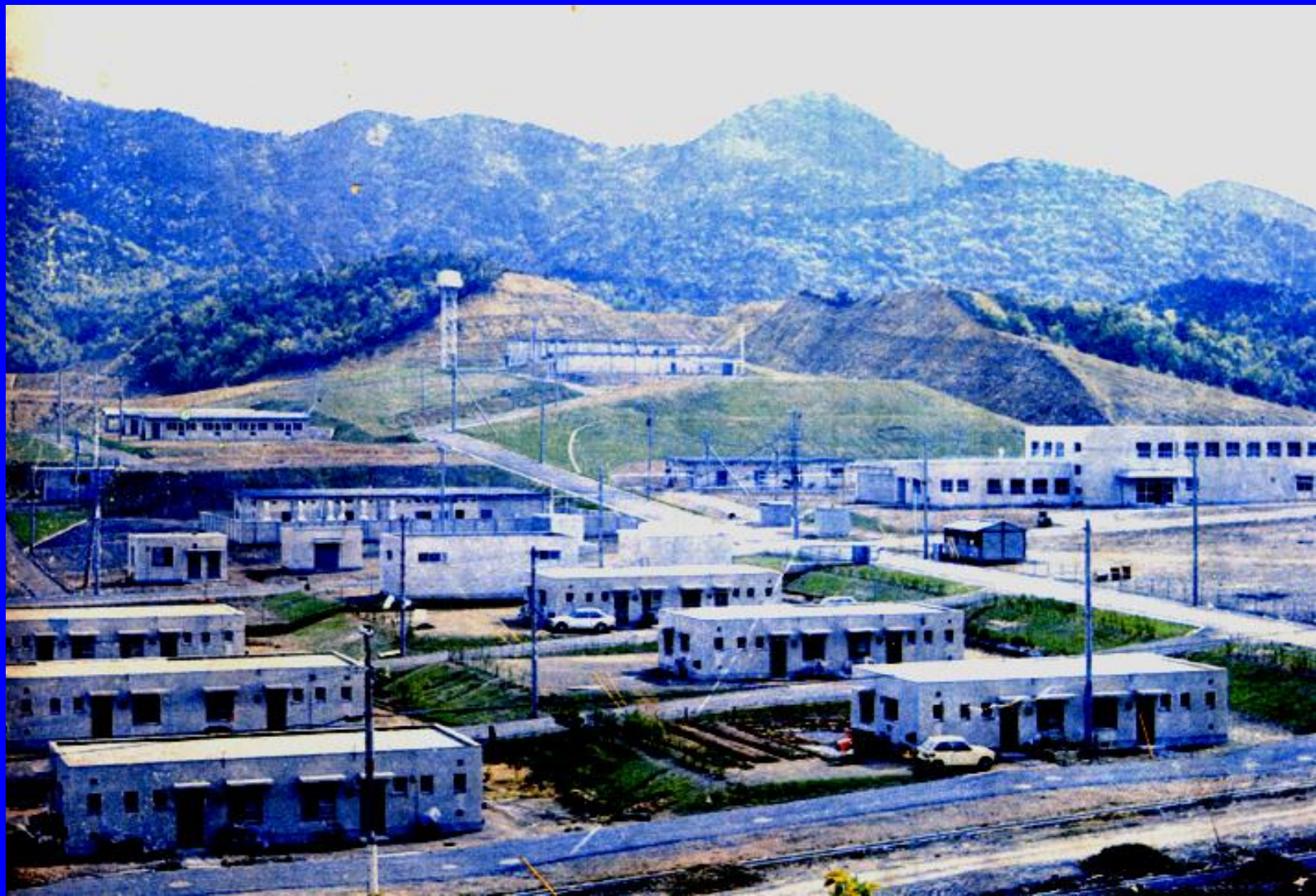
◇担当理事会[理事長, 副理事長(編集委員長), 役務(総務, 会計, 支部, 専門委員会)] 理事会提案議題等の検討

◇全国支部長会(秋季全国鶏病技術研修会開催時)年1回
支部運営状況, 意見・要望等の検討 (支部長就任者総数：811名)

◇賛助会員会：年1回 意見・要望等の聴取・検討

設立		10周年	20周年	30周年	40周年	50周年	
年次	S40	45	50	55	60	H2	
西暦	65'	70'	75'	80'	85'	90'	
西暦					95'	00'	
西暦						05'	
西暦						10'	
西暦						15'	
理事長任期							
第1代 高松泰人	9	67'3					
第2代 川島秀雄	67'4	71'3					
第3代 高松泰人		71'4	76'3				
第4代 椿原彦吉			76'4	86'3			
第5代 堀内貞治				86'4	91'3	湯浅 襄副理事長	
第6代 佐藤静夫					91'4	01'3 代行	
第7代 谷口稔明						01'4 06,7	
第8代 山口成夫						07,4	
理事長写真							
	高松泰人 第1,3代	川島秀雄 第2代	椿原彦吉 第4代	堀内貞治 第5代	佐藤静夫 第6代	谷口稔明 第7代	山口成夫 第8代
適用会則							
設立会則(S40,9,22)	「鶏の衛生技術に関する会員相互の知識の向上, 応用普及」						
改訂会則(H6,4,20)	「家きんおよびその生産物の衛生に関する知識・技術」						

鶏病研究会歴代理事長の任期と適用会則 (資料4; p124-131)



S47(1972)10,1設立:岐阜県関市 [閉場:H5(1993)9,30]

農林省家畜衛生試験場鶏病支場(資料1-7;p113)



初代

椿原彦吉



第2代

堀内貞治



第3代

南本実俊



第4代

国安主税



第5代

川村 斉



第6代

前田 稔



第7代

日原 宏



鶏病支場庁舎(共同実験室)と歴代支場長

(資料1-7;p113-114)



- 今回は、物故者12名を含め52名の世界で名立たる研究者が殿堂入りし、日本人では湯浅博士が唯一最初の殿堂入りです。
- 湯浅博士の業績：
- マレック病ワクチン接種ひなに発生した脚麻痺を主徴とした異常症例の原因が、ワクチンに迷入していた**細網内皮症ウイルス (REV)**であることを発見した業績(1979年、日本獣医学会賞)
- さらに本症例から世界で初めて**鶏貧血ウイルス (CAV)**の存在を明らかにし、その困難な分離培養法を確立(マレック病リンパ腫由来培養細胞であるMDCC-MSB1細胞で増殖・定量可能であることを発見)して病原性、理化学的性状、疫学等を明らかにした業績

湯浅博士は、2014年8月22日フランスで開催された第18回世界獣医家禽学会(WVPA)で名誉殿堂入りされました。

過去50年間に世界の家禽病研究分野で卓越した業績を挙げ、WVPAの活動や家禽衛生向上に大きく貢献した研究者に与えられる名誉ある表彰です

**湯浅 襄博士(前副理事長)が日本人初の
WVPA名誉殿堂入り (記念誌p271)**

資料1-8

国における鶏病研究体制の整備強化と 研究領域の拡大に関する要望書

農林水産省農林水産技術会議事務局長殿

今後必要な研究課題

1. 複合(日和見)感染症の防除技術
2. 細胞寄生性原虫病ワクチンの開発
3. 採卵鶏のサルモネラ症の診断・防除法の開発
4. 食鳥の食中毒菌感染防除技術の開発
5. 海外伝染病の診断・防除技術の開発
6. 鶏病原体変異株の発現機序解明と予防法開発

平成4(1992)年1月28日

鶏病研究会理事長 佐藤静夫
(全国46道府県支部長連名)

鶏病支場閉場記念誌
[H5(1993)9,30]

国における鶏病研究体制の整備強化と研究領域の
拡大に関する要望書

鶏病支場21年の歩み

農林水産省家畜衛生試験場



H22(2010)度理事会 厚労省監視安全課加地課長の食 品衛生に関する近況説明



H13(2001)年度総会 来賓：農林省衛生課宮島課長 ， 厚労省監視安全課高谷課長

鶏病研究会総会・理事会



**全国支部長会議(静岡市)
[H26(2014)年度]**

**賛助会員会議
[H26(2014)年度]**



全国支部長会議, 賛助会員会議



祝辞：農林省畜産局長



来賓：畜産局長, 協賛会長, 日本獣医師会長,
家畜衛生試験場長



記念講演：安藤座長挨拶



左から：清水副理事長, 高村・尾形理事,
丹羽協賛会会長, 樺日本獣医司会会長

20周年記念式典・講演会[S60(1985),10.4]

鶏病研究会30周年記念式典・講演会



祝辞：厚労省森田乳肉衛生課長



来賓：農水省畜産局熊沢長, 家衛試松山場長, 厚労省森田乳肉衛生課長, 農水省間衛生課長



理事長感謝状贈呈：支部推薦者代表岡村氏（岩手県）



理事長感謝状贈呈者

30周年記念式典H7(1995)9,27]



来賓：内閣府食品安全委員会境課長, 農水省動物衛生課釘田課長, 厚生労働省監視安全課桑崎課長

来賓祝辞：厚生労働省桑崎監視安全課長



理事長感謝状贈呈：支部推薦者代表毛利氏（宮城県）



懇親会

40周年記念式典・懇親会[H17(2005)10,21]

3.活動の概要

1) 専門委員会

2) 編集委員会

「鶏病研究会報」等の刊行

3) 鶏病技術研修(検討)会

専門委員会

(記念誌p96-97)

(資料1-4:p105, 3-1, -2,-3; p118-120) (資料12;p144-145)

◆専門委員(任期2年)(13-34名)(就任者総数:196名)

◆ 専門委員会委員長, 副委員長(委員の互選)

- 課題別小委員会:小委員長他数名(年度課題数:2-4)
- 理事長,専門委員会担当理事,その他招聘者

◆検討課題提案:理事会(専門委員会も提案可能)

検討期間:原則年度内に理事会へ答申

理事会による答申案の審議・小委員長修正

◆・会報掲載:担当理事・理事長承認後,
解説記事

専門委員会検討課題年次推移(資料-15; p155-158)

1. ウイルス病						
西 暦	65'	75'	85	95	05'	15'
和 暦	S40	50	60	H7	17	27
ニューカッスル病(ワクチン, ハト)	●●●●●●		●		●	● ●
伝染性気管支炎(ワクチン)			●	● ●		●
マレック病(ワクチン)		● ●	●			
伝染性ファブルキウス嚢病		●				
伝染性喉頭気管炎			●			
リンパ性白血病			●			
トリオウイルス感染症			●		●	
鶏貧血ウイルス感染症				●		
産卵低下症候群				●		
トリニューモウイルス感染症					●	
鶏アデノウイルス感染症						●
高病原性鳥インフルエンザ*					● ●	● ● ● ● ● ●

専門委員会検討課題年次推移(資料-15; p155-158)

2.細菌・真菌・原虫・寄生虫病、その他						
西 暦	65'	75'	85'	95'	05'	15'
和 暦	S40	50	60	H7	17	27
ひな白痢	●					
サルモネラ症(飼料,卵・肉)		●	●	●●●	●●●	●●●●
大腸菌症 (SHS)				●		●●
壊死性腸炎				●		●
カンピロバクター感染症(卵・肉)				●	●	●●●●
コクシジウム症	●●					●
ロイコトゾーン症				●		
内部寄生虫症	●					
腹水症			●			
ポックリ病			●			
出血性症候群			●			
産卵異常						●

専門委員会検討課題年次推移 (資料15; p155-158)

3.飼養・衛生管理, 防疫対策等						
西 暦	65'	75	85	95'	05'	15'
和 暦	S40	50	60	H7	17	27
消毒		●	●		●	●, ●
育成率低下(動生協委託)	●●					
孵卵衛生対策(農水省委託)		●				
鶏病の分類(用語コード〇)		○●●		○●	●	○
鶏病検査へのELISA			●			
総合ワクチン接種プログラム				●	●	●
食鳥検査●と疾病・異常				●	●●●	●●●
特用家禽の疾病と対策					●●●●	
小規模養鶏の衛生対策					●	●●
WL鶏舎の衛生対策					●	●●
HACCP方式の衛生管理					●	●
野鳥●,ネスミ●による伝播と対策					●	●
大量殺処分と適正処理					●, ●	
動物福祉と飼養管理						●
養鶏場の環境問題と対策						●●●●
ワクチンの開発●・効果と投薬						●, ●

農林省からの「ふ卵衛生の指針」案の検討依頼 (資料3-4;p121)

• 依頼状 昭和49年10月22日

• 鶏病研究会理事長
• 高松 泰人殿

• 農林省畜産局 衛生課長
ふ卵衛生の指針の検討依頼について
近年ふ化場における衛生対策は鶏衛生の
要として、その重要性がますます論議され
てきている。
• そのため国としては、……ふ卵衛生指を
作成すべく、家衛試鶏病支場および神奈川
県北相家保の協力を得て案をとりまとめた
ので、さらに充実したものとするため貴研究
会に検討願いたく依頼する。

• 礼状

• 50畜A第3265号
• 昭和50年8月28日

• 鶏病研究会理事長殿

• 農林省 畜産局長 印
• ふ卵衛生対策指針の作成について
かねてから、種々のご協力を得て作成
中のふ卵衛生対策指針について、今回、
別紙写しのとおり各都道府県知事あて
通知したのでお知らせします。

「ND小容量ワクチン供給」要望書(抜粋)

(資料3-5,3-6; p122,123)

- 農水省消費・安全局衛生管理課
- 課長 栗本まさ子殿

- 小規模養鶏および愛玩鶏・ダチョウ等の飼育実態把握と衛生対策の重要性について

- 鶏病研究会
- 理事長 谷口稔明
- 記

1. 小規模養鶏(1,000羽以下の庭先養鶏, 地鶏, 愛玩鶏等)の実態把握と衛生対策の実施
2. ダチョウの飼育実態の把握と衛生対策の実施
3. **小容量ワクチン製造・販売**が安定的に行われるための需給の枠組み作りへの助成

- 財団法人日本動物用医薬品協会
- 理事長 岡本 康平殿

- 小羽数用ニューカッスル病ワクチンの製造および販売について

- 鶏病研究会
- 理事長 谷口稔明
- 記

1. 小規模養鶏に対応した**小羽数用(100ドーズ)のNDワクチン(生・油性アジュバント加不活化)の製造・販売**
2. 製造・販売が安定的に行われるための需給の枠組み作り
3. 小規模養鶏(1,000羽以下の庭先養鶏, 地鶏, 愛玩鶏等)の実態把握と衛生対策の実施への協力

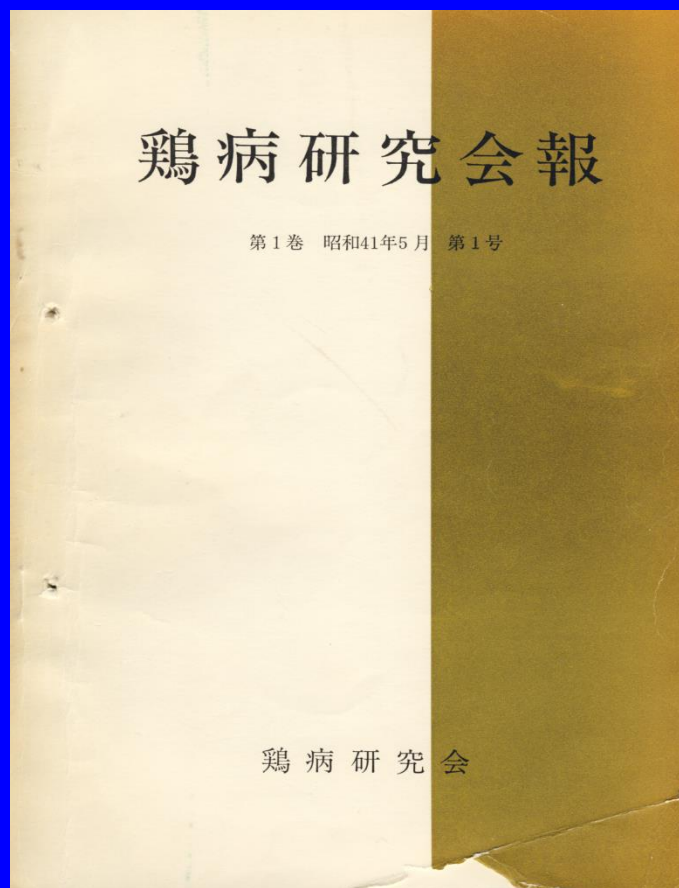
2) 編集委員会-1

(記念誌p97-99)

- 鶏病研究会報の創刊：S40(1965)10,15第1回理事会決定
- 編集委員会の設置：高村委員長ほか4名,逐次10数名程度に増員（就任者総数：68名），（資料;p143）
- 鶏病研報第1巻第1号発行（S41,5,20）学術刊行物認可（郵政省）：S41,12,20
- 季刊（年4回）発行：第4巻（S43）以降,増刊号（秋季全国技術研修会講演内容集録）発行：S43以降,第50巻（H26）以降,A4版・ロゴマーク記載
- 会報英文名：Japanese Society on Poultry Diseases
- 編集内容(投稿規定)；総説,資料,体験(見聞],新考案(資料2-1),S47(1972)以降の投稿規定改訂で,次第に学術誌の体裁が整えられた。
- 編集委員長：鶏病支場発足に伴い,歴代支場長に委任され,廃止後は,担当理事1名の専任
- 副編集委員長：39巻3号(2003,11)以降設置された(資料11)
- 編集方針：平易性(解説記事等),学術性(原著論文)

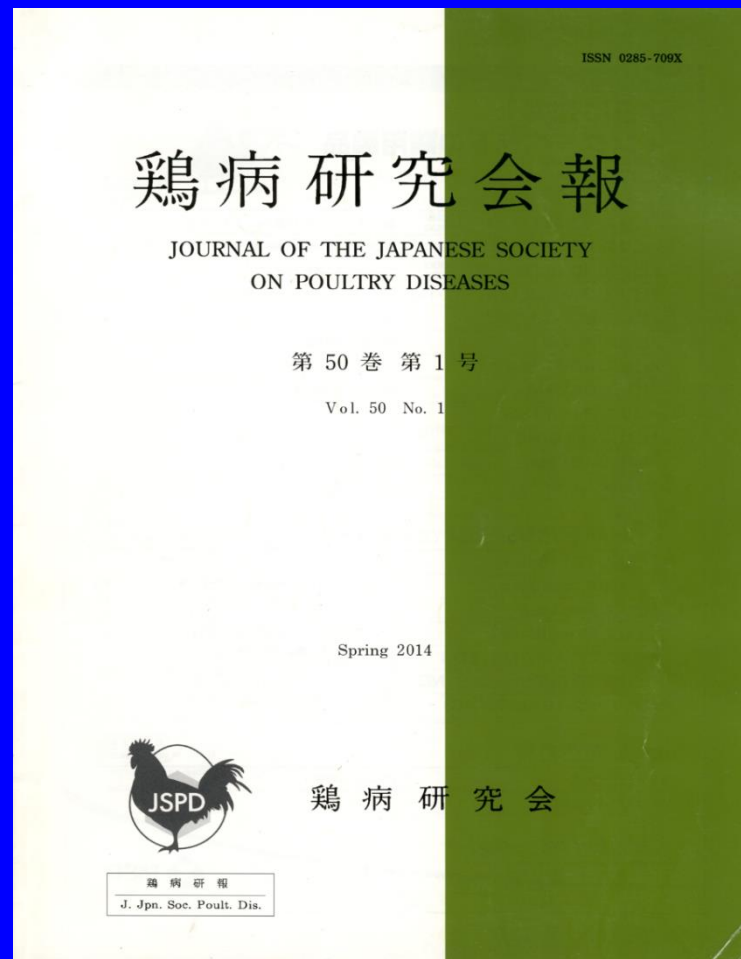
編集委員会-2

- 会報の寄贈先: 国会図書館, 国公立大学(獣医学科), 動物衛生研究所, 各県の関係機関等, 海外(送付依頼): 英国, 米国, 中国, 台湾, 韓国, ブラジル等
- 会報以外の小冊子(12冊), 図書(5冊うち1冊は8版)の刊行
- **優秀論文賞[H18年(2006)設定]: 年度ごとに会報掲載論文から優秀な1論文を選考, 総会で表彰。**
- 木鶏[23(3)-25(4)]: 会員の意見・要望等
- 小鳥コーナー(埼玉支部会報から転載)[24(3)-]: 小鳥の病気
- 鶏病事例検討会記事[24(4)~]
- **食鳥検査の対象疾病[28(1)-30(1)], 食鳥検査でみられた病変[30(2)-41(4)], 鳥病カラーシリーズ[42(1)~]**
- 地鶏紹介[44(2)-46(1)], 地鶏・銘柄鶏紹介[42(2)~] (不定期)
- やさしい技術[42(3)-44(2)], 鶏病講座[44(3)~] (不定期)



B5版 1巻1号

[1966(S41),5,20発行]



A4版 50巻1号

[2014(H14),5,25発行]

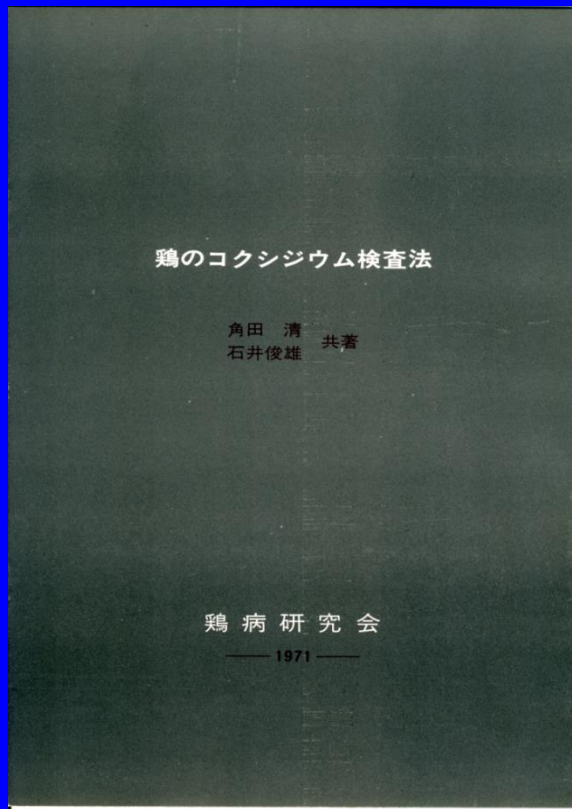
鶏病研究会報



第50回通常総会(H27,4,22)
平成26年度鶏病研究会優秀論文賞を山口理事長から
中村諒子氏(三重県中央家保)に授与

鶏病研究会報優秀論文賞一覽

年度	演題	所属	氏名
H18	ワクモを実験的に寄生させた採卵鶏における貧血と体重減少をともなう死亡	千葉県畜産総合研究センター	村野 多可子
H19	茨城県で発生した高病原性鳥インフルエンザ(弱毒タイプ)についての一考察	茨城県鹿行家保	都築 智子・ 清水ひろみ
H20	採卵養鶏場に発生した皮膚型鶏痘とワクモからの鶏痘ウイルスの検出	三重県北勢家保	竹馬 工
H21	消石灰による「待ち受け消毒」効果の検証	徳島県徳島家保健	大久保喜美
H22	食鳥検査でみられたアイガモの <i>Aspergillus fumigatus</i> 性気嚢炎	岩手県獣医師会 食鳥検査センター	大池 裕治
H23	ひな白痢急速診断用液を用いた <i>Salmonella</i> Enteritidis 感染鶏の摘発と清浄化対策	奈良県家保	武平 有理子
H24	三重県における近年の鶏封入体肝炎の発生と鶏アデノウイルスの浸潤状況	長崎県中央家保	井上 大輔
H25	採卵鶏および肉用鶏における伝染性気管支炎ウイルスのサーベイランス	兵庫県姫路家保	中条 正樹
H26	鶏脳脊髄炎による産卵低下および鶏脳脊髄炎ウイルスの分離	三重県中央家保	中村 諒子



鶏のコクシジウム検査法

角田 清、石井俊雄著

[1971(S46),3,30発行]



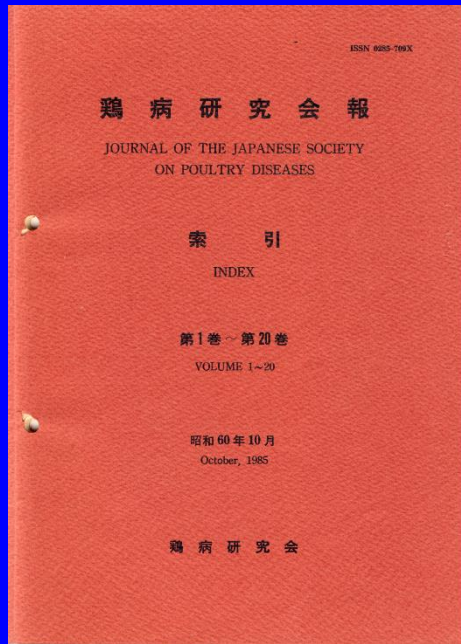
鶏の消化管内寄生虫

特に毛体虫の検査法

板垣 博著

[1973(S48), 9発行]

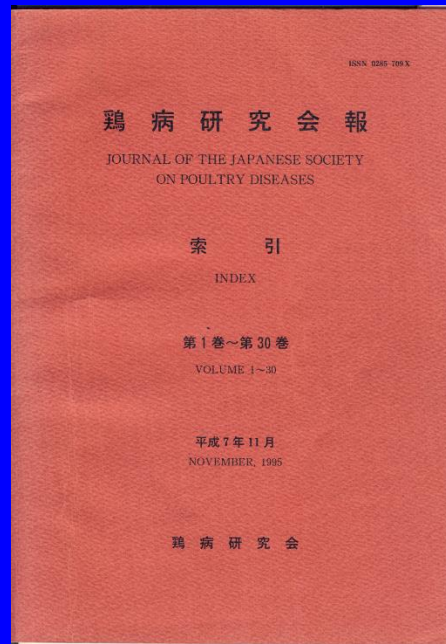
鶏病研究会発行小冊子-1



20周年記念

会報第1巻-20巻

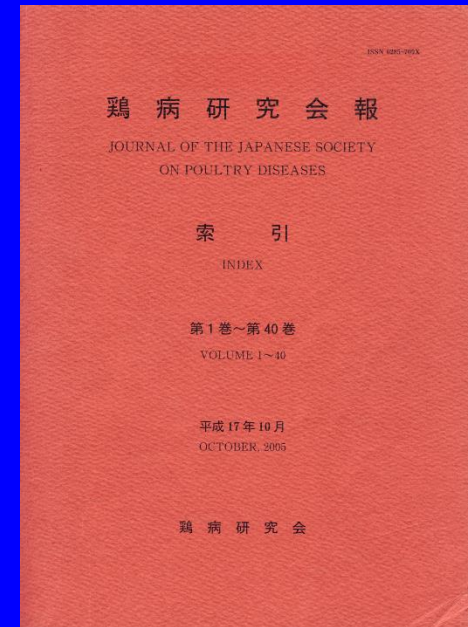
S60(1985)10,5



30周年記念

会報第21巻-30巻

H7(1995),11,25



40周年記念

会報第31巻-40巻

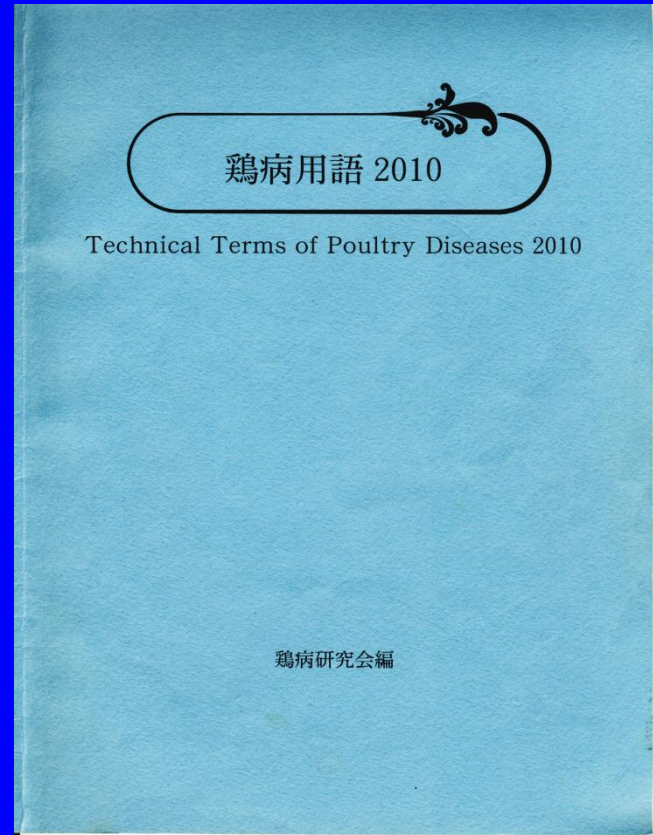
H17(2005),10,15

鶏病研究会報索引(記念出版)



鶏病用語コード'90

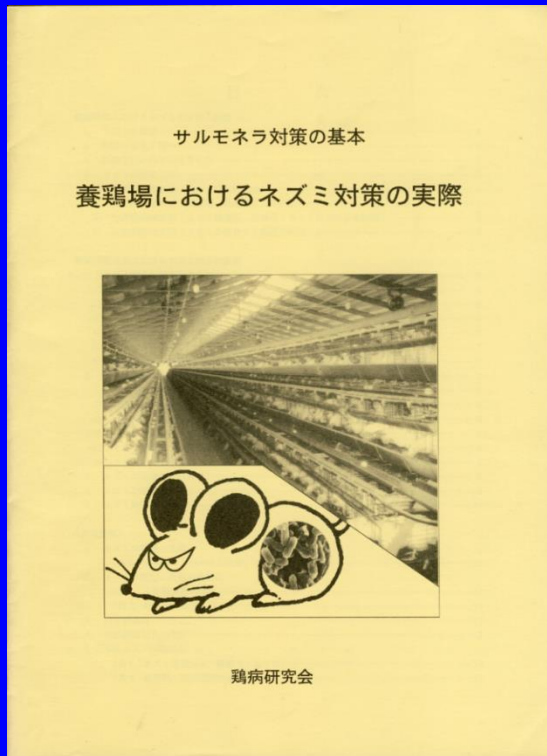
会報26(2)(H2,6)別冊



鶏病研究会編 鶏病用語2010

会報45(3)(H22,11)別冊

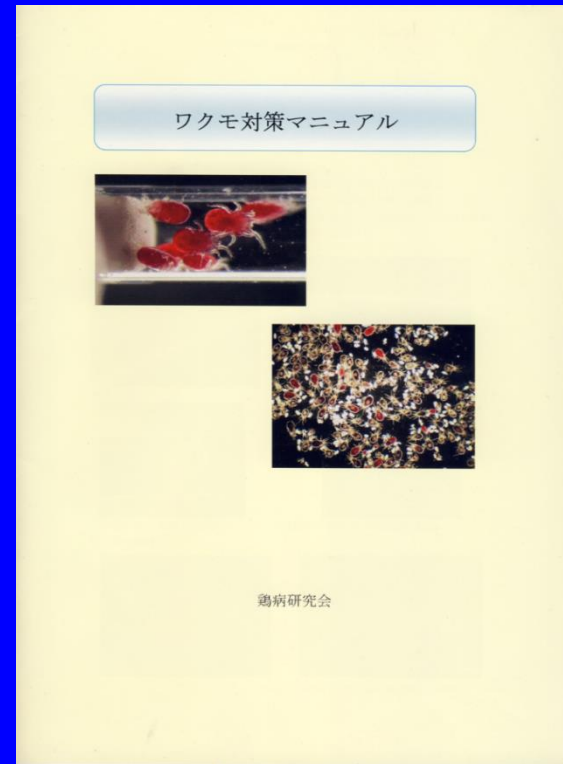
鶏病研究会編 鶏病用語コード'



ネズミ対策の実際

谷川 力, 中村政幸, 江口郁夫,
佐藤静夫著

[2007 (H9), 11, 21発行]

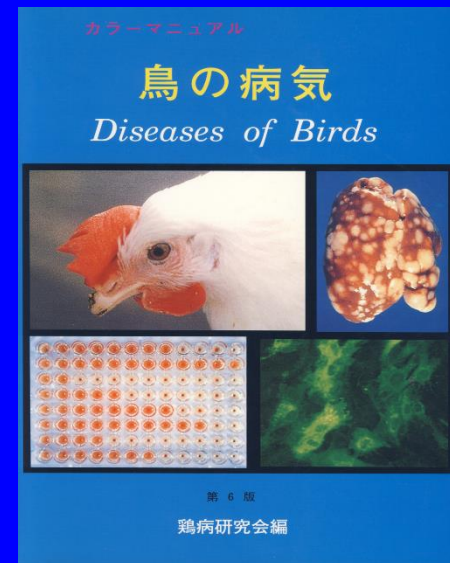
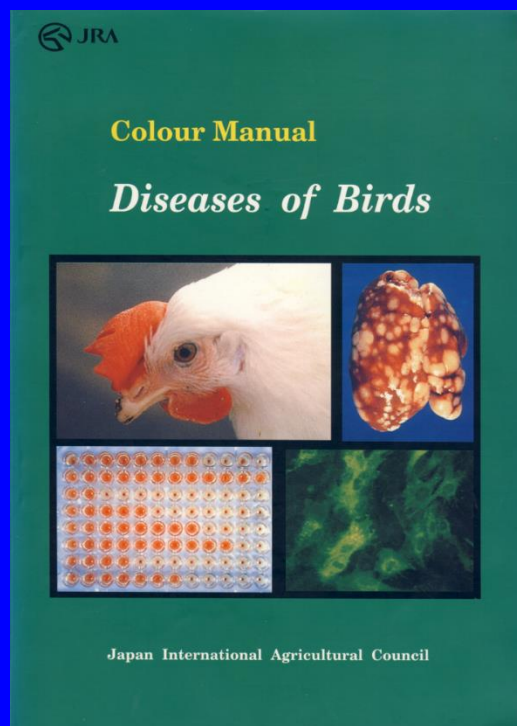
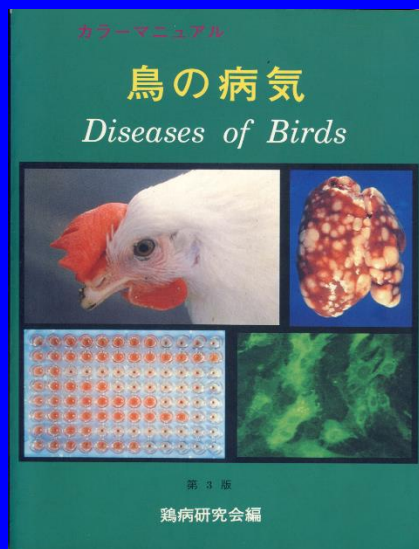


ワクモ対策マニュアル

村野多可子著

[2011 (H23), 3, 31発行]

鶏病研究会発行小冊子-2



カラーマニュアル
「鶏の病気」
30周年記念出版
[H7(1995),11 発行]

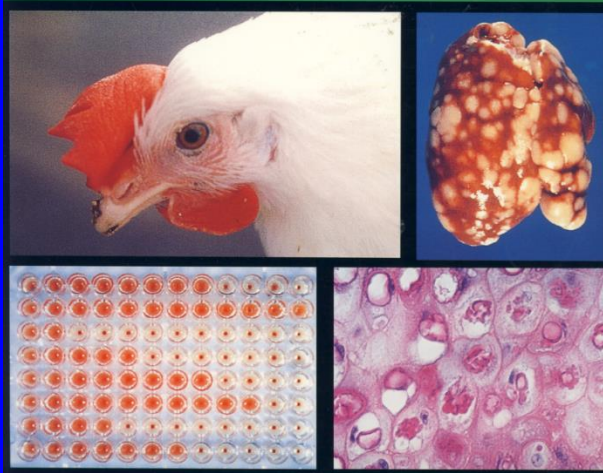
「鳥の病気」英訳版(A4
版)
編修：鶏病研究会
発行：畜産技術協会海外技
術協力事業部
[H12(2000),3]

「鳥の病気」第6版
(増補改訂)
[H18(23006),10,2発行]

カラーマニュアル

鳥の病気

Diseases of Birds



第 8 版



鶏病研究会編

鳥の病気第8版
2014,3,1発行

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠

家禽疾病学

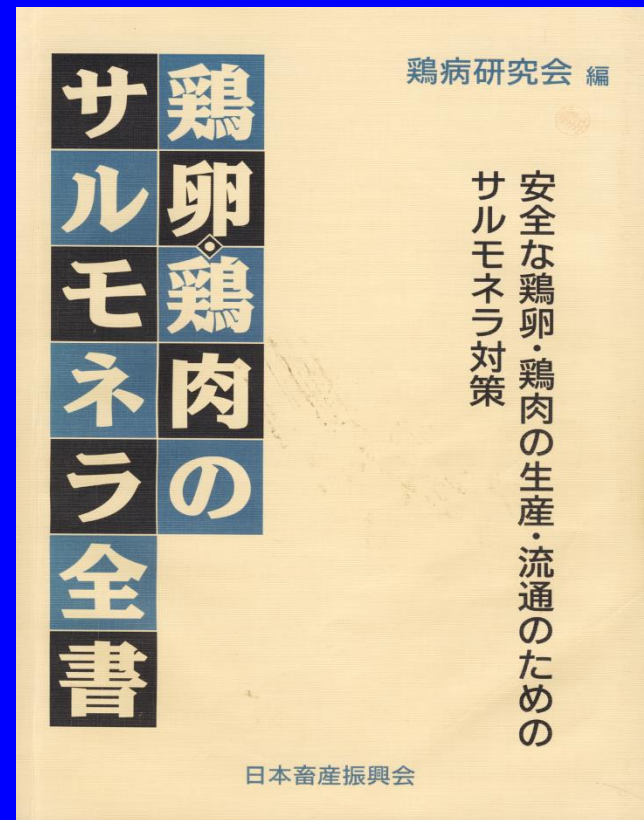
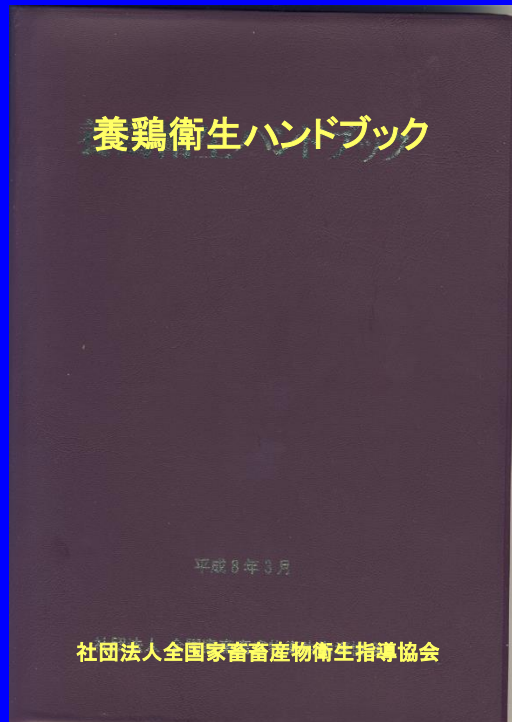


鶏病研究会編



獣医学共通テキスト委員会認定

家禽疾病学
2015,3,1発行



養鶏衛生ハンドブック

編集 鶏病研究会

発行 社団法人全国家畜畜産物
衛生指導協会

H8(1996),3,31

編修 鶏病研究会
発行 日本畜産振興会

H10(1998),5,30



THE JAPANESE SOCIETY ON POULTRY DISEASES

鶏病研究会への入会案内

鶏病研究会は、鳥インフルエンザやサルモネラ症などの重要な鶏の病気の予防や安全な鶏肉・鶏卵の生産に関する会員相互の知識および技術の向上とその普及を目的として、活動している全国組織の研究会です。興味ある方の入会を歓迎します。

1. 会員と会費

- 個人会員：年会費5,500円（支部活動費が別途徴収される場合あり）
- 賛助会員：年会費一口4万円

2. 主な活動内容

- 鶏病技術研修会：全国鶏病技術研修会（年2回）、地区鶏病技術研修会（全国の6地区で各年1回）、支部研修会（道府県の各支部）を開催
- 鶏病研究会報の発行：解説、研究論文、資料、講演抄録等（年5冊発行）、ホームページにてバックナンバーの目次がご覧になれます。
- 専門委員会：鶏病の専門家で構成し、重要な衛生問題に関する解説記事を作成して会報に掲載
- 表彰：優秀論文賞、地区研修会優秀発表賞
- ホームページによる最新情報提供

3. 入会申し込み方法

下記のいずれかの方法で入会手続きをしてください。事務局で申し込み書受領後、会費ならびに支払方法等を連絡いたします。

- 「入会申込書」を事務局に郵送またはFAX送信
- ホームページ「ご入会の方法」の「鶏病研究会入会申し込み用フォーム」のページから、オンライン申し込み

鶏病研究会ホームページ（H27, 8, 25以前版）

3) 研修会

(資料5,6;p132-133)

- ◆ 春季全国鶏病技術研修会: 総会に継続開催(資料16;p159)
- ◆ 秋季全国鶏病技術研修会: 全国6地区で輪番開催
 - [H8(1996)以降は,北から南の地区への順送りで開催し,担当地区内では,輪番制で開催支部が選定されている]
 - **農林水産省消費・安全局(動物衛生課)の後援**を受け開催
 - 全国研修会の演題、テーマは、理事会で決定(開催担当支部からの要望も考慮し,特別講演も設定)されている

(資料17; p161)
- ◆ 地区研修会: 全国6地区で毎年開催: 各地区の所属支部が輪番制で開催, 他の養鶏団体の同時開催地区もある。
本部から助言者派遣: **優秀発表賞の授与(H18~)**
H27(2015),9現在: 51名受賞
- ◆ 支部研修会: S53年以降は, 毎年,**30支部内外**で, 1ないし複数回, 任意に開催されている。(資料6;p133)

秋季全国鶏病研修会テーマ（1）

（資料17;p161-167）

- S41(1966)(東京) : 鶏のCRDの予防, 治療
- S42(1967)(神戸市) : 養鶏配合飼料における飼料添加剤の現状と問題点
- S43(1968)(東京) : ニューカッスル病予防注射プログラム
- S44(1969)(山口市) : ひな育成率の低下要因と対策
- S45(1970)(秋田市) : 飼料検査, 栄養障害, 資料事故
- S46(1971)(鳥取市) : マレック病とそのワクチン
- S47(1972)(大分市) : ひな白痢の非特異反応について
- S48(1973)(岐阜市) (鶏病支場共催) : 鶏の遺伝, 環境と防疫
- S49(1994)(奈良市) : 鶏の衛生に関する消毒
- S50(1995)(東京都) : 鶏の管理環境と生産コスト

秋季全国鶏病研修会テーマ（2）

- S51(1976)(東京都): 飼料添加剤と医薬品について
- S52(1977)(宮崎市): 鶏伝染性喉頭気管炎対策
- S53(1978)(名古屋市): **鶏の伝染性ファブリキウス嚢病**
- S54(1979)(札幌市): 鶏病支場の研究成果, 鶏の液性免疫能の発達, IBDの研究展望, MS感染・発症機構
- S55(1980)(岡山市): 生産性低下に関する二,三の要因
- S56(1981)(十和田市): **鶏白血病およびマレック病に関する最近の知見**
- S57(1982)(鳥取市): **新開発ワクチン(ILT, IBD)の特徴と使い方**
- S58(1983)(前橋市): コクシジウム症の現状と問題点
- S59(1984)(鹿児島市): ニューカッスル病の予防接種について
- S60(1985)(東京都): **20周年記念講演**(鶏の成長と生理, 鶏の感染防御能の発達, 免疫グロブリン)

秋季全国鶏病研修会テーマ（3）

- ・ S61(1986)(盛岡市) : 鶏の呼吸器病の診断, 予防
- S62(1987)(静岡市) : 鶏貧血因子(CAA)の役割
- S63(1988)(香川町) : 鶏の大腸菌症
- H元(1989)(新潟市) : 鶏病の血清診断法 (ELISA)
- H2(1990)(福岡市) : 鶏のコクシジウム症
- H3(1991)(岡山市) : *Salmonella* Enteritidis感染症
- H4(1992)(札幌市) : 強毒伝染性ファブリキウス嚢病(IBD)
- H5(1993)(水戸市) : 食鳥検査とブロイラーの衛生対策
- H6(1994)(伊勢市) : 鶏の飼養環境と疾病
- H7(1995)(東京都) : 30周年記念講演 ; 洋鶏導入史, 鶏病の経済性評価



伊勢駅正面ビルの壁面に、
鶏病研究会全国研修会
の垂れ幕



H6(1994)年度秋季全国研修会(伊勢市)

秋季全国鶏病研修会テーマ (4)

H8(1996)(神戸市): **鶏卵の安全性**を巡る諸問題

H9(1997)(広島市): **家畜伝染病予防法の改正と家畜伝染病対策**

H10(1998)(熊本市): **安全な鶏卵・肉**の生産と衛生対策

H11(1999)(秋田市): **鳥類の新興・再興感染症**の現状と問題点

H12(2000)(新潟市): **安全な鶏卵の生産・流通とHACCP**の現状

H13(2001)(岐阜市): **21世紀の養鶏と鶏病対策**

H14(2002)(大津市): **脅威となる家禽疾病の発生と対策**

H15(2003)(広島市): **鳥インフルエンザ, ウェストナイルウイルス感染症の疫学と防除対策**

H16(2004)(佐賀市): **高病原性インフルエンザの疫学と防疫**

H17(2005)(東京都): **40周年記念講演: 鳥インフルエンザウイルスのコントロール, 野外における鶏病防除, 鳥類の社会**

平成16年度秋季全国鶏病技術研修会
「高病原性鳥インフルエンザの疫学と防疫」

主催 鶏病研究会 後援 農林水産省衛生管理課 佐賀県 佐賀県獣医師会 鶏病研究会佐賀県支部

京都府における

高病原性鳥インフルエンザの発生と防疫措置

京都府中央家畜保健衛生所 池博敏

わが国における

高病原性鳥インフルエンザの感染経路

動物衛生研究所 塚本 健司 先生

大陸から飛来する

野鳥の種類と飛翔ルート

自然環境研究センター 久保田 正秀 先生

人への感染性と対策

国立感染症研究所 小田切 孝人 先生

鳥インフルエンザの

ワクチン使用の現状と

動物衛生研究所 山口 威夫 先生

H16(2004)年度秋季全国鶏病技術研修会(佐賀市)

秋季全国鶏病研修会テーマ (5)

- H18(2006)(山形市): 養鶏における潜在性感染の実態と留意点
- H19(2007)(前橋市): 最近の鶏病問題と対策 (HPAI, ワクモ等)
- H20(2008)(名古屋市) 飼育管理と生産性・衛生上の問題
- H21(2009)(京都市): 鳥インフルエンザの疫学と対策
- H22(2010)(出雲市): 最近話題の鶏病の疫学と対策 (大腸菌症)
- H23(2011)(鹿児島市): 鳥インフルエンザの発生防止策
- H24(2012)(仙台市): 養鶏場における飼養衛生管理 (動物福祉, 野生動物, ホルムアルデヒド燻蒸の代替消毒法等)
- H25(2013)(宇都宮): 最近話題の鶏病と対策 (カンピロバクター, コクシウム, 壊死性腸炎, 腹水症等)
- H26(2014)(静岡市): 今注目の鶏病問題 (趾蹠皮膚炎, 暑熱対策等)



H19(2007)年度秋季全国鶏病技術研修会総合討論：
湯浅座長と演者(中村, 青木(村野代), 石橋, 伊藤, 後藤の各氏)

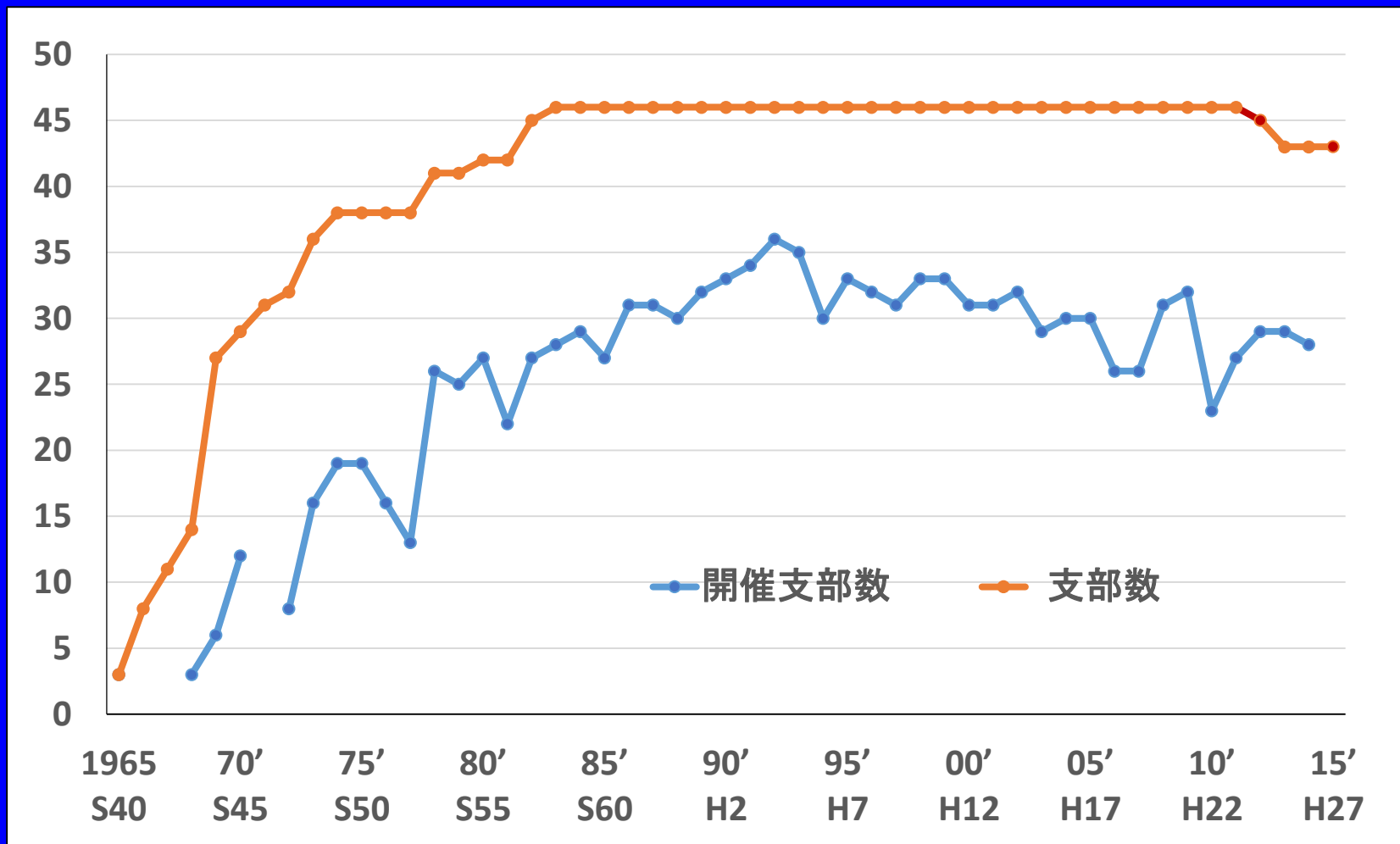


H10(1998)10,23 第33回東海北陸地区鶏病技術研修会(岐阜市)

H9(1997)2,25 関東・甲信越地区
鶏病技術研修会(水戸市)



地区研修会



総支部数と研修会開催支部数の年次推移

(資料6;p135, 資料14-1-2;p152-154)



三重県支部研修会
「米国における食肉・食鳥検査」
H15(2003),7,2

岐阜県支部総会・研修会
「最近のNDの発生とウイルスの
分子疫学」

講師 今田忠男(動衛研)

H13(2001),7,4



支部総会・研修会

まとめ

- 鶏病研究会は、当時の農林省高村衛生課長の構想のもとに産官学の協力体制で創設され、会員は家保職員を主体とし、設立18年後のS58(1983)年までに46支部が設置されたが、近年の会員数の減少傾向、支部の解散問題等への対策が課題である。
- 本会の活動分野は、当初、「鶏の衛生技術に関する知識の向上・普及」とされていたが、食鳥検査制度の導入を機にH6年(1994)年以降、「家禽及びその生産物の衛生」に拡大された。
- 本会は、専門委員会、編集委員会、鶏病技術研修会を3本柱として活動し、創設以来、時宜に適したテーマを選択し、時には、国や関係団体からの要請にも応じ、家禽およびその生産物の衛生に関する技術・知識の向上並びに普及に務めてきた。
- 今後の養鶏産業においても鶏卵・肉の安全性確保は、最重要な課題であり、その分野に関わる本会の活動は益々重要となる。また、その産官学を連携した活動は、わが国の家禽衛生に関わる人材育成の面からも重要である。

終わりに、50年間にわたる本会の活動にご協力を頂いた会員ならびに役員の方々に感謝の意を表します。

また、この機会に創設後間もなくから約40年に亘りお世話になった今吉絢子女史ならびに、ほぼ同時期から約20年間、幹事および理事として事務局の運営にご協力頂いた故井上邦一理事に謝意を表します。



今吉絢子事務局員
(1968-2007)



井上邦一幹事(1967-
1970)・理事(1971-1986)